



CHAPTER 1

概要

Cisco Data Center Network Manager (DCNM) は、IP アドレッシング、オブジェクトトラッキング、および Gateway Load Balancing Protocol (GLBP; ゲートウェイロードバランシングプロトコル) をサポートします。

この章では、次の内容について説明します。

- 「IPv4 と IPv6」 (P.1-1)
- 「ファーストホップ冗長プロトコル」 (P.1-1)
- 「オブジェクトトラッキング」 (P.1-1)

IPv4 と IPv6

レイヤ 3 は、IPv4 プロトコルまたは IPv6 プロトコルを使用します。IPv6 は新しい IP プロトコルで、世界中で広く展開され、使用されているインターネットプロトコルである IPv4 に代わるものとして設計されました。IPv6 では、ネットワークアドレスビット数が 32 ビット (IPv4 の場合) から 128 ビットに増やされています。詳細については、[第 2 章「IPv4 の設定」](#) または [第 3 章「IPv6 の設定」](#) を参照してください。

ファーストホップ冗長プロトコル

FHRP を使用すると、ホストで冗長接続が可能となります。アクティブなファーストホップルータがダウンした場合は、その機能を引き継ぐスタンバイルータが、FHRP により自動的に選択されます。アドレスは仮想のものであり、FHRP グループ内の各ルータ間で共有されているため、ホストを新しい IP アドレスで更新する必要はありません。Gateway Load Balancing Protocol (GLBP; ゲートウェイロードバランシングプロトコル) の詳細については、[第 4 章「GLBP の設定」](#) を参照してください。Hot Standby Router Protocol (HSRP; ホットスタンバイルータプロトコル) の詳細については、[第 5 章「HSRP の設定」](#) を参照してください。

オブジェクトトラッキング

オブジェクトトラッキングを使用すると、インターフェイス回線プロトコル状態、IP ルーティング、ルート到達可能性などの、ネットワーク上の特定のオブジェクトを追跡し、追跡したオブジェクトの状態が変化したときに対処することができます。この機能により、ネットワークの可用性が向上し、オブジェクトがダウン状態となった場合の回復時間が短縮されます。詳細については、[第 6 章「オブジェクトトラッキングの設定」](#) を参照してください。

